

## 相談内容



- 本校の学校運営協議会を振り返ると、委員は親身になって意見を述べてくれる一方で、学校は報告や説明が多くなってしまい、限られた会議を活かしきれていない状況である。また、専門部会を組織したり、具体的な活動につなげたりすることはいずれも学校主導になっており、学校運営協議会が主体的に会議や活動を運営しているとは言えない状況でもある。学校運営協議会が自走して活動していくためにはどうすればよいか？

## 「学校運営協議会は新たなフェーズに入っています」



助言者：四柳 千夏子 氏  
三鷹市教育委員会  
(文部科学省CSマイスター)

- 教育委員会の皆さんにとって、学校運営協議会を導入する「最初のステップ」への伴走支援は一段落していると思いますが、本日の両校の相談内容には共通しているものがあります。
- それは「会議をどうするの？」です。これが今の大きな課題になっていると思います。
- 学校運営協議会を設置し、委員さんも活動し始め、そして数年が経過した今、学校運営協議会は新たなフェーズに入ってきています。
- よって、教育委員会の皆さんは、新たなフェーズの伴走支援をしなければいけません。

## 「何をやるかではなく『何のために』やるか」

- 机の配置を工夫するだけでも、会議は活性化します。グループや小人数で座ると、自然とおしゃべりが生まれます。そういう場を作ることが大事ですね。
- 学校運営協議会の委員の皆さんは、「学校運営協議会設置規則」を再度確認してください。多くの場合、会議の招集権限は校長先生ではなく会長にあります。ということは、学校運営協議会は学校のガバナンス強化やよりよい学校づくりの話をするのですが、学校運営協議会そのものは、委員の皆さんのものなのです。
- よって、会議をどうするかは、校長先生が1人で考え悩むことではなく、委員の皆さん全員が、自分事として考えていくべきものです。そうすることで、少しずつですが学校主導ではなく、地域の皆さんが主体的に運営していく学校運営協議会に生まれ変わっていくと思います。
- 三鷹市でも会議が形骸化している学校があります。そのような学校では、校長先生ではなく委員さんから「これではだめだね」という声が出て、「何のための学校運営協議会か？」を委員全員で考えてくれると信じています。

## 「残念な会議になっていませんか？」



- 皆さんが普段参加している会議は、どんな会議ですか？
- 例えば、2時間の会議に参加すると、席が指定され、机の上に資料があり、黙って座っていれば粛々と会議が進む。「皆さん忌憚のない御意見を！」とか「何か質問ありませんか？」と言われても、「空気が読めていない…」「こんなことも分からないの…」と思ってしまい黙ったまま会議は終了。こんな会議はありませんか？
- 学校運営協議会がこのような会議だと、あっというまに形骸化します。

## 「学校運営協議会が形骸化する要因」



- 学校運営協議会が形骸化する要因は、大きく3つあります

## ①「年間の会議の回数、時間が少ない」

- 年間3回の会議は少ないです。会議の回数、時間が少ないと、限られた会議の中に、議事を詰め込まないといけなくなります。1学期分のことを全部学校が説明することになる。そうすると、学校からの説明が長くなり協議の時間が短くなる、という悪循環が起こります。

## ②「校長先生や会長だけがしゃべっている」



- 皆さんの学校運営協議会では、全員がしゃべっていますか？
- 校長先生だけが一生懸命に説明している、進行の会長だけが淡々と議事を進め、皆は黙って聞いている。そういった会議になっていませんか？
- 黙って会議に参加していると、「自分はいなくてもいいよな」と思いませんか？
- そうなると、会議は自分事ではなく他人事（永遠にお客様）になります。

## ③「学校や地域の活動報告などの事務連絡会議になっている」

- 会議の効率化も大事ですが、皆が安心して意見を言える場を作っていかなければいけません。どうすればそれを実現できるのかを、皆で考える必要があります。